

千葉大学教育学部幼稚園教員養成課程 50 周年記念シンポジウム

「新しい時代の幼児教育を拓く」

2018年9月29日に、千葉大学教育学部にて、千葉大学教育学部幼稚園教員養成課程 50 周年記念シンポジウムを開催しました。卒業生、幼児教育関係者など、270名近い方々にご参加いただき盛会のうちに終えることができました。当日は、徳久剛史学長、小宮山伴与志教育学部長に加え、来賓の文部科学省初等中等教育局幼児教育課長先崎卓歩氏からもご挨拶をいただき、幼児教育の無償化といった幼児教育の最新動向を踏まえた幼児教育の重要性などをお話いただきました。



前半の「千葉大学教育学部幼稚園教員養成課程の歩み」では、当課程の元教員で千葉大学名誉教授の水野修孝先生、中澤潤先生からは当時の思い出とともに、当課程が保育者養成や研究等において積み重ねてきた歴史とその意義をお話いただきました。また、千葉大学教育学部附属幼稚園の教職員の先生方からも先生方の学生時代の教育実習での思い出や当課程と附属幼稚園との関わりについて楽しくお話をいただきました。その後、当課程の元教員の岡部裕美先生の音楽演奏では、水野先生作曲の作品をバイオリンの上野真理さんとともに披露していただきました。



後半は、「養成・研究・実践のこれまでとこれから」と題して、当課程の卒業生である荒木尚子先生（帝京平成大学教授）と箕輪恵美先生（中央区立有馬幼稚園園長）のほか、名須川知子先生（兵庫教育大学副学長）、岩立京子先生（東京学芸大学教授）、無藤隆先生（白梅学園大学大学院特任教授）、中澤潤先生（千葉大学名誉教授、植草学園大学・短期大学学長）とともに、これからの国立大学における保育者養成及び乳幼児教育の展望について議論を深めました。議論の中では、国立大学における特色ある保育者養成等の取組が紹介されるとともに、国立大学の特性を生かした政策に関わる研究、現職者の持続的研修機能の充実などの必要性が提起されました。



シンポジウム終了後の参加者アンケートでは、有意義なシンポジウムであったとのご感想を多数いただきました。また当日の様子は雑誌『遊育』（2018年10月発行、Vo.1.26 No.19）誌にて記事が掲載されました。